

2019(平成31)年2月

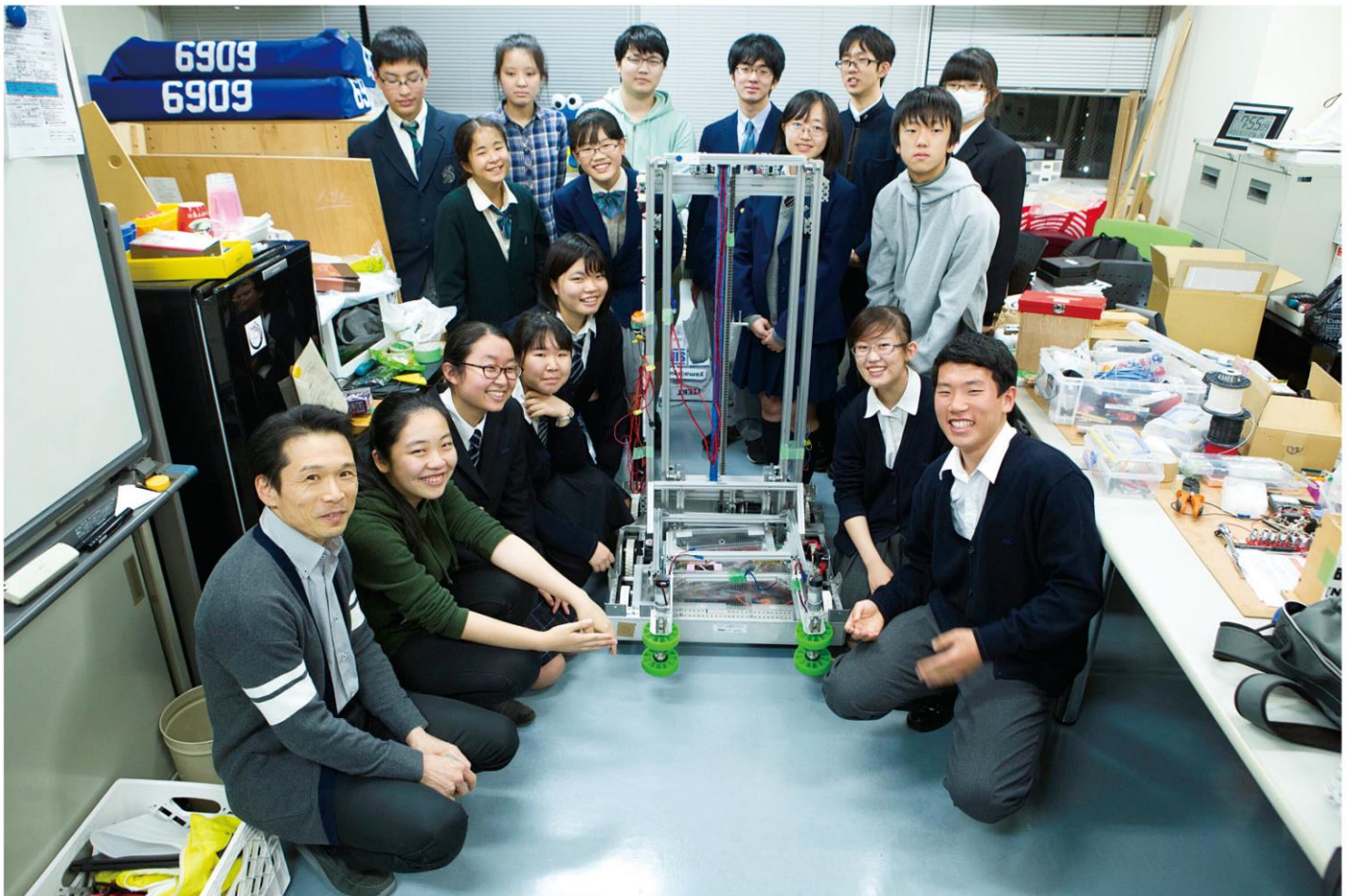
習志野市男女共同参画社会づくり情報紙

第44号

# きら *Kira Kira* きら

特集

## 世界中に桜吹雪を ～中高生たちのロボットチーム～



撮影：山崎 悠次 ©tsumug inc.

「授業では経験できない」「社会とのつながりを…」女子高校生たちから次々に飛び出す言葉には新鮮で強烈なインパクトがある。アメリカのNPOが主催するFRCロボコン世界大会に参加、日本チームで初の受賞を果たした「SAKURA Tempesta」。ロボットの設計・製作から資金集めまで自力で多くの困難を乗り越え、世界に躍り出た。“理系”で活躍する中高生のメンバーに話を聞きました。



# “協力の輪”！

## - 初の受賞 -

### ■留学先で出会った FRC

チーム設立のきっかけとなったのは、現在リーダーを務める中嶋花音さん（東邦高校3年生）が高校1年生の時にアメリカの高校に留学した際に FRC に参加し、活動を通じて地域への貢献などを体験したことでした。

「その雰囲気がいいなと思い、日本でも活動できないかと考えるようになりました。」（中嶋さん）

FRC は設計、製作、ロボット操縦に加え、資金集めのほか、活動を通じて地域貢献（アウトリーチ）を自分たちですべて行います。

機械工学には興味がなかったという中嶋さんですが、留学中に SNS などその思いを発信していました。友達や知り合いに声をかけ、荻田倫那さん（東邦高校3年生）をはじめ賛同してくれた友人たちで2017年8月に発足。「桜吹雪を盛大に」という意味を込めてチーム名を「SAKURA Tempesta」と決めました。（Tempesta=イタリア語で「嵐」の意）

### ■資金0円からのスタート

チーム立ち上げと同時に大会に参加するための資金を用意しなくてはなりません。

「『リケジョ』応援をうたっているところや、企業などを中嶋さんが調べてくれて、みんなで手分けして一人あたり週に10~20件協賛依頼のメールを送りました。」（荻田さん）

ほとんどのメールが反応ありませんでした。支払い期限ぎりぎりまで資金協力のお願いは続きます。できたばかりのチームが海外のロボコンに参加するということの理解を得て、資金協力をお願いする。支払い期限まで時間はわずか3ヶ月。かなりの根気と熱意が求められました。

東邦大学付属東邦高校2年生  
そねはら ゆうひ  
曾根原 佑飛さん



東邦大学付属東邦高校3年生  
なかじま かのん  
中嶋 花音さん



東邦大学付属東邦高校3年生  
おぎた りんな  
荻田 倫那さん



### SAKURA Tempesta

FRC 出場を目指すチームとして2017年8月に発足。千葉工業大学未来ロボット技術研究センター（fuRo）の支援を得ながら、千葉工業大学津田沼キャンパスを拠点に活動している。

その後期間近で協力してくれる企業が見つかり、支払いを無事に完了することができました。大会にかかった費用は渡航費なども含めトータルで約650万円。そのほとんどは企業や個人からの寄付金や、インターネット経由で寄付金を募るクラウドファンディングで集まったお金でまかなわれています。

### ■いざハワイ大会、さらに世界大会へ

「予選のハワイ大会では参加初年度のチームの中でトップとなり賞をいただくことができました。世界大会の出場も決まり嬉しかったです。そのおかげかハワイ大会の時よりも早い段階で資金を集めることができました。賞をいただいたからという部分もありますが、アウトリーチ活動をメインで行ったことを理解いただけたのではと思います。」（中嶋さん）

大会に参加して、ものづくりの楽しさや資金集めの大変さ、地域との関わりなどを体験することができました。英語力も身に付きましたが、大会中に困ったこともあります。

「言葉の壁でしょうか。日常会話はできても、試合の最中に聞いたことのない言葉が出てくるんです。実際にはゲームマニュアルに載っていた単語を言い換えて表現し

ていたのですが、理解するまでに時間がかかりました。」（曾根原さん）

「ハワイは日本語が通じやすかったのですが、デトロイト（世界大会）ではそうはいかず、チーム間での会話はすべて英語でした。ジェスチャーも交えながらでしたが。」（中嶋さん）

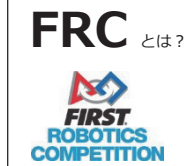
「送られてくるゲームマニュアルもすべて英語です。わからないところはみんなで分担して調べながら進めました。」（荻田さん）

大会間近になると準備の忙しさもピークとなり、帰りが終電の時間になってしまうこともありました。

「自分たちが楽しくて気付いたらこんな時間だったという感じでしたね。」（中嶋さん）

留学先で経験してきたことを活かし、チームでもアウトリーチ活動に力を入れているといいます。

「今のスポンサーの企業さんの中には内閣府の男女共同参画局が行うリコチャレ（理工チャレンジ）に協賛し、女子高生向けのワークショップをやっているところもあります。私たちはそういった企業さんたちとコラボしてワークショップの企画、運営などもしています。私がいたアメリカのチームは科学館や博物館がスポンサーになっていて、オフシーズン



とは？

アメリカの NPO 法人 FIRST (For Inspiration and Recognition of Science and Technology) が主催する国際ロボティクスの大会で、33 カ国以上の国から約 3800 チーム、9 万 5000 人以上の学生が参加しています。FIRST はセグウェイの発明者であるディーン・ケーメンが 1989 年に設立した組織で、ロボティクスをテーマにしたプログラムを青少年を対象に提供しています。単に科学技術に関する技能や知識を競うのではなく、プログラムを通じて、STEM 分野（※）において将来リーダーとなるような人材の育成に力を注いでいるのが特徴です。

には来館者にロボットを実際に操縦してもらったり、練習試合を見てもらったりしていました。その他に清掃活動もありました。」（中嶋さん）

チームはハワイ大会・世界大会併せて、初参加チームにしか与えられない3つの賞をすべて獲得しました。

### ■後輩たちへメッセージ

活動の輪は徐々に広がり、メンバーは中学生を含め現在18名。高校3年生の中嶋さん、荻田さんは今年度でチームを引退します。卒業しても後輩に教える立場となり関わっていきたくて考えています。FRCを通して理工分野以外にも幅広く興味が広がっていききました。授業だけでは経験できないことをたくさん学ぶことができたと言います。

「この活動は自分たちだけではできません。たくさんの方の協力で成り立っていると思っています。感謝しつつ、楽しみながら活動してほしいと思います。」（荻田さん）

「世界大会へ行くときのチームも地域との関わり合いを大切にしていたり、より良いコミュニティを作っていくために男女平等やジェンダーについて活動を通して話し合います。それは個人やパーソナリティも強化され素晴らしいと思います。自分たちが発信していくことで、STEM 分野（※）に興味を持ちやってみようと思ってもらえたら嬉しいです。」（中嶋さん）

“SAKURA Tempesta”の名のごとく「桜吹雪が盛大に舞うように」これからも挑戦は続きます。



ハワイ大会の様子

※STEM分野…Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の分野を総称する語のこと。



**習志野市男女共同参画  
推進団体インタビュー**

男女共同参画社会の実現に向けて、市と共に協力を活動を行う市民団体である「習志野市男女共同参画推進団体」を紹介します。



(左から) 齊藤 真理さん、国分 博子さん、田中 伸吾さん

**習志野まちづくり研究会**

設立：2014年  
会員数：5人  
代表：小杉 洋平さん

「健康宣言都市・習志野」を広く発信していきたい…との思いから2014年に会を立ち上げ、健康、食、日本文化などをテーマに男女の心身の健康増進を推し進める活動を行っている。

代表の小杉洋平さんは習志野育ちで、若手歌舞伎俳優の尾上隆松さん。

会では気功と日本伝統の舞を組み合わせ、背骨伸ばしと骨盤の調整ができる「楽医舞療法®」を編み出した。千葉大学医学部に籍を置いたことがあるという国分さんは「心身を鍛えることで病気の予防やケアにも効果が高い」と説明する。

メンバーは「習志野の地域の皆さんの健康づくりを一番にお手伝いしたい!」と考えている。

会ではホームページも整え、「楽医舞療法」や「体質改善講座」など健康づくりのための実践と普及に協力を呼びかけている。

ホームページ <https://naramachi.wixsite.com/mysite-1>  
TEL 047(427)3381

ひとりで悩んでいませんか?悩んでいる方は相談を!

**女性の生き方相談**

\*無料 \*要予約 \*秘密厳守 \*市内在住・在勤・在学者対象

- ◎DV (ドメスティック・バイオレンス) のこと
- ◎夫婦のこと ◎家族のこと ◎人間関係のこと
- ◎自分自身の生き方のこと など

<面接相談>女性の専門相談員があなたと一緒に考えます。

日時: 第1金曜 午後1時30分~3時10分・4時~7時40分

第2・4火曜、第3木曜、第3金曜 **1回40分**

午前9時~11時40分・午後0時30分~4時10分

場所: サンロード津田沼6階 市民相談室

申込: 習志野市男女共同参画センター (ステップならしの)

**047-453-9307** 予約 平日 午前8時30分~午後5時  
受付 土曜 午前9時~午後5時

**編集委員の  
おすすめ図書**



ステップならしの図書コーナーでは、男女共同参画に関する図書の貸し出しや資料が閲覧できます。ひとり5冊、2週間まで借りることができます。どうぞご利用ください。

「自分で決めてできる」子どもが育つ  
**お手伝い至上主義!**



みたに こうじ  
三谷 宏治 著

プレジデント社 発行 2016年

子どもたちに「生きる力」「自立する心」をいかに与えるか。お手伝い至上主義…お手伝いの習慣が子どもの「意欲」や「向上心」を生み出していくと著者は強調している。お手伝いから得られる「段取り力」や「意思決定力」。それがひいては「就職力」にもつながるといふ。未来を生きる子どもたちに求められるのは「与えすぎない」「ヒマ・貧乏・お手伝い」「放牧型イベント」が答えで、子育ての究極の極意は子育てに突っ込みすぎないことだと言っている。

**きらきら★  
キーワード**



このコーナーでは、男女共同参画に関する今話題のキーワードや数字などを紹介します。

**110位**

男女格差・世界の中の日本の順位です。スイスの国際機関「世界経済フォーラム」は政治、経済、教育、健康の4分野で、世界各国の男女格差について毎年調査しています。

2018年の報告書によると対象になった149か国のうち、日本は110位でした。教育や健康分野では比較的评价が高いのですが女性の国会議員や企業経営者が依然少なく順位は先進国の中で最下位でした。男女格差が最も少ない国はアイスランド、2位ノルウェー、3位スウェーデン、4位がフィンランドと北欧諸国が上位を占めています。

**アンケート  
実施中!**



今後のより良い紙面づくりのため、記事内容等に関するアンケートを実施しています。アンケートの内容は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。皆さんの率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

【回答方法】  
右記のQRコードから専用メールフォームにアクセスし、各質問項目を回答して「送信」を押してください。

